

令和4年度外務大臣表彰 受賞者紹介(個人)

外務大臣表彰は、日本との友好親善関係の増進に特に顕著な功績のあった個人および団体について、その功績を称えるものです。今年度の個人部門では翁倩玉（ジュディ・オング）さんと檜山幸夫・中京大学名誉教授が受賞されました。

8月10日、外務省内において令和4年度外務大臣表彰式が行われ、林芳正外務大臣から表彰状を授与されました。ご功績に対し、衷心より敬意と感謝を表します。

なお、団体部門では、「社団法人台湾応用日語学会」、「台日文化経済協会」、「中華文化総会」及び「台中市白冷圳水流域発展協会」の4団体が受賞されました。団体部門については次号以降の「交流」でご功績を紹介いたします。

翁倩玉（ジュディ・オング）さん

功績概要：日本と台湾との相互理解の促進

翁倩玉（ジュディ・オング）氏は、台湾出身の歌手・女優。ヒット曲「魅せられて」等が人気を



林外務大臣から表彰状を授与されるジュディ・オングさん

博す傍ら、チャリティイベントに積極的に参加し、1999年の台湾中部大地震や2011年の東日本大震災の際には多数の慈善活動に取り組みました。また、木版画家としても活躍し、作品を通じて台湾の方々に日本の風景美を伝えることに貢献。2011年、台湾において「文化親善大使」を受賞。長年にわたる文化芸術活動のほか、日台間の文化交流や友好親善を推進し、相互理解の促進に大きく貢献されています。

受賞のことば

この度は名誉ある、「外務大臣表彰」を賜り大変光栄に存じます。

「これからはもっと台湾と日本の友好のために役に立ちなさい。」これは芸能界入りを反対していた父が「魅せられて」がヒットした時に言った言葉です。

「それが台湾と日本への恩返しだよ。」と。

台湾は私の生みの親であり、日本は育ての親なのです。3歳で日本に来て、気が付いたら毎日が国際交流。隣の「マコちゃん」の家に行けば「ちゃぶ台にお煎餅」、家に帰ると「絨毯にテーブルに杏仁豆腐」。日本のお友達とは日本語、家の中では台湾語。二つの文化に育てられたのです。どちらも大好きで、双方が仲良しであることが私の一番の幸せです。

私は16歳の時に台湾に戻り、日本で自分の曲に中国語で父に詞をつけてもらいました。それらのヒットをきっかけに、台湾と日本を仕事で往復するようになり、双方の文化の紹介は常でした。

東日本大震災の時、全台湾が自分のことのように「加油日本！」と立ち上がってくれました。助

けを求めに帰った私の目の前の光景に目頭が熱くなりました。それは全てのテレビ局が同じ募金番組を放送したのです。「がんばれ日本。加油日本！」スターも市長も総統も作家も著名人皆が自らひな壇に座り電話に出て募金活動をしてくださいました。皆の心は「姉妹が大変。助けなくては！」でした。あれほど心強く思ったことはありません。募金額は大国アメリカに次ぎ世界第二位でした。

日本統治下の時代、政府高官は台湾のインフラを整備し、生活が良くなるよう予算を組みました。台湾を育てようという日本人の心を、台湾人は忘れていないのです。その心は私たち世代にも、その下の世代にも浸透しています。

「台湾大好き、日本大好き人間」の私にこのような偉大な外務大臣表彰をいただけたことは台湾のニュースにも大きく取り上げられました。台湾と日本の架け橋の役目を少しは果たせたのかなと心いっぱい喜びを抱きしめながら、2018年10月2日に亡くなった父に報告しました。「パパあなたの遺言を少し果たせました。」

この受賞にご尽力くださった皆様、私に命をくれた両親、いつも優しく見守ってくれた家族、そして私を応援してくださっている全ての皆様から感謝申し上げます。まだ少しお役に立ちたく思います。さらに精進していく所存です。ありがとうございました。

檜山幸夫・中京大学名誉教授

功績概要：台湾における日本研究の推進

檜山幸夫氏は、1981年から中京大学で教鞭を執る傍ら、日台学術分野研究を推進。戦後、中華民国に接收された台湾総督府文書に関し、所蔵している台湾省文献委員会と学術協力協定を締結し、明治28年から昭和20年までの全目録を完成させました。また、保存状態の改善、損傷した文書の修復、解読作業を推進し、未発見の史料も多数発見。これら文書はデジタル化され、日本の台湾統治時代の研究のための基礎資料として広く活用されており、研究インフラの形成、日台の歴史研究と学術協力の発展に多大な貢献を果たされま

した。

2022年度外務大臣表彰を授賞して

この度、1981年以来行ってきた台湾史研究が研究基盤の構築として評価され、外務大臣表彰を授賞するという栄誉を賜ったことから、その意義を考えてみたいと思います。

第一の意義は、この研究は当時幻の史料とされて殆ど知られていなかった台湾総督府文書の全貌を把握するとともに、この史料が日本の台湾統治を記録した貴重な第一級史料であるというだけでなく、世界的に見ても稀有で貴重な歴史資料であることを明らかにしたことで、それがこの文書を一般に公開するということを促したことにあります。

第二の意義は、この文書を所蔵していた台湾省文献委員会（現在は国史館台湾文献館）が文書のデジタル化による公開を目指し、そのために同委員会からこの文書の目録編纂の依頼があり、そこで同委員会と中京大学社会科学研究所が学術交流協定を締結し、文書目録編纂事業をはじめたことで、これにより台湾総督府文書を基にした実証主義による純粋学問研究として日本統治下の台湾史研究の基礎が構築されたことです。

第三の意義は、この目録編纂作業は難解な近代古文書で書かれている膨大な量の公文書を解読するものであることから、古文書の解読力と日本近代史の専門的知識を有した研究者が必要となり、全国から27の大学と16の研究所・文書館・史料館などの研究諸機関から100名近くの教員・研究



林外務大臣から表彰状を授与される檜山幸夫名誉教授

員・学芸員・院生学生などが、さらに台湾からも5の大学・研究所の教員・研究員が参加するという日台両国による協同の編纂事業となったことです。

第四の意義は、82回におよぶ台湾での編纂作業には、文書学や保存科学、アーカイブズ学の専門家もおり、彼らの専門的な知見から、文書の保存や修復といった知識や技術の提供も行ってきたことと、毎年夏期に、台北や南投で日台両国の研究者が協同して古文書講習会を開催し、台湾の大学院生などの利用の促進を図ったことです。

第五の意義ですが、そもそも日台間に歴史認識問題が起こらない理由の一つに、日本の統治支配を評価するために不可欠な基本的史料である台湾総督府文書が公開され日台間で共有化されていることにあり、それを促したのがこれらの事業であったことです。

この度の授賞は、かかる事業に携わった多くの関係者に対する評価でもあると深く感謝するとともに、これを契機に日台の歴史研究がさらに発展していけることを願っています。